

第80回 (R6. 8)

水に落ちた犬を叩くのか

東京都知事選が終わって3週間が経ちました。選挙結果は現職の庄勝で終わり、ネットを駆使した新人が2位に、当初有力な対抗馬とみなされた候補が3位に沈みました。

ところが、その夜からネットやテレビを通じて、2位3位の落選候補に対し痛烈なバッシングが始まったのです。普通、選挙が終われば勝者にスポットが当たりますが、今回は落選者の過去の言動への批判までが、ネットやマスコミを賑わす異常事態となりました。

「水に落ちた犬を叩く」という言葉があります。「転落したものは徹底的に叩いておかないと、いずれまた仇を為す」との意味で使われていますが、まさに言葉通りの情景が繰り広げられました。

誤解してもらっては困りますが、私は落選したお二人に親近感を覚える者でも、お二人の今後に期待する者でもありません。ただ、選挙後の騒

動を見てみると、ここぞとばかりに落選した敗者を貶める風潮に、どうしても違和感を覚えるのです。

人は皆、何度も失敗を重ね幾度となく挫折を味わう、不完全で未成熟な生き物です。その未熟さのために、水に落ちて溺れそうな人を、安全な岸边から叩きのめすのは、決して褒められた振る舞いではありません。

「水に落ちた犬を叩く」の本来の意味は「そんなことをすれば、人の道に反する」というものです。他者を批判非難すれば、いくばくかのストレス解消になるかもしれませんが、ただ、歪んだ快感に身を委ねる前に「他者を批判する自分は何者なのか」今一度自分自身のことを省みてみたいものです。